

「家族療法基礎講座」開講のお知らせ

一般社団法人日本家族療学会は、家族療法の普及と人材育成を目指し、研修体制を完成するべく取り組んでおりますが、「家族療法基礎講座」は、その一環として開講されたものです。本講座は以下の9講座で構成されます。各講座の講師は、その領域の第一人者に務めていただき、『家族療法テキストブック』に沿って、家族療法の基礎理論や基礎概念を学べる内容になっております（この基礎講座は、「認定ファミリーセラピスト」の認定取得要件となります）。皆様のご参加をお待ちしております。

なお、2023年度からは、家族療法の普及と幅広い参加を促すためにZoomでのオンライン開催となりました。ウェブサイト上の「オンライン開催にあたっての注意事項」をお読みの上、ご参加ください。

●2026年度「家族療法基礎講座」プログラム

- 第1回 5月10日 10:00～16:00 ①「家族療法概論—基礎理論と歴史」
- 第2回 6月7日 10:00～16:00 ②「多世代伝達モデル」
- 第3回 7月12日 10:00～16:00 ③「構造的モデル」
- 第4回 10月4日 10:00～16:00 ④「コミュニケーション・モデル」
- 第5回 11月15日 10:00～16:00 ⑤「ミラノ・システムック・モデル」
- 第6回 12月13日 10:00～16:00 ⑥「対象関係論的・力動精神医学モデル」
- 第7回 1月17日 10:00～16:00 ⑦「家族心理教育」
- 第8回 2月14日 10:00～16:00 ⑧「ナラティブ・セラピー」
- 第9回 3月14日 10:00～16:00 ⑨「バイオサイコソーシャル・モデル」

●会場 Zoomによるオンライン開催

●定員 30名程度

●対象 家族療法を学びたい方、家族支援に携わっている方
(例：医師、看護職、保健師、公認心理師、臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士、児童福祉司、作業療法士、学校教諭、家庭裁判所調査官、保護観察官、法務技官、学生など)。

*上記以外の資格については、事務局にお問い合わせください。

●参加費 [各回] 会員 6,000円／非会員 9,000円 申し込み後、開催期日の1週間前までに参加費をお振り込みください。振り込みが確認できない場合には参加申し込みは無効となりますのでご注意ください。

●申込方法 日本家族療学会ウェブサイトのフォームからお申し込みください

(www.jaft.org→「お知らせカテゴリー」→「家族療法基礎講座」)。開催日の3日前までにURLと資料をお送りいたします。Zoomへは参加者本人のお名前でないとう入室できません

のでご注意ください。

※各講座は臨床心理士のポイントになります。

※本講座は日本公認心理師協会「認定専門公認心理師」の認定にかかるテーマ別研修（分野共通）として申請中です（年間で複数の講座を受講した場合も、取得上限は5単位となります）

●お問合せ先 一般社団法人 日本家族療法学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル（株）毎日学術フォーラム内

TEL: 03-6267-4550／FAX: 03-6267-4555／E-mail: maf-jaft@mynavi.jp

○「家族療法基礎講座」内容

講座番号① 「家族療法概論—基礎理論と歴史」 [講師] 市橋香代、中野真也

内容—家族療法の基礎理論と歴史を通して、家族療法の全体を概観し、明日からの臨床に使えるエッセンスをお届けします。

講座番号② 「多世代伝達モデル」 (多世代家族療法) [講師] 福山和女

内容—多世代家族療法は、マレー・ボウエンが体系化した家族システム論の諸概念を適用し多世代の家族を視野に入れた家族療法である。ジェノグラムや家族ライフサイクルの視点を加味している。講座では、ボウエンの家族システム論に基づき、主要な五つの概念を理解する(三角関係、分化度、情動システム、家族投影プロセス、多世代伝承プロセス)。ジェノグラムを用いた多世代家族療法のDVDを聴取しながら、このアプローチのエッセンスを共に考えたい。

講座番号③ 「構造的モデル」 (構造派の家族療法) [講師] 吉川悟

内容—構造的モデルは、サルバドール・ミニューチンがP. C. G. C. で創始したアプローチである。設立時の影響を示しつつ、構造的モデルの鍵となる諸概念と、具体的な介入の特徴について解説する。その上で、構造的モデルの基本となる面接場面を解説しながら、介入の象徴とされているhere & Nowの実際を示す。

講座番号④ 「コミュニケーション・モデル」 [講師] 村上雅彦

内容—コミュニケーション・モデルは、コミュニケーション理論を中核として、ミルトン・エリクソン(Erickson, M.)の技法を取り入れた独特の介入技法を持ったアプローチです。家族療法テキストブックに沿って講義・演習を行います。

講座番号⑤ 「ミラノ・システムック・モデル」 [講師] 吉川悟

内容—ミラノ・システムック・モデルは、MRIの方法論の発展であり、現在最も注目されている「オーブンダイアログ」の入り口です。複雑な手続きと、理論的背景を持つアプローチですが、できるだけ簡便に現代的な活用を前提として、要点を演習します。

講座番号⑥ 「対象関係論的・力動精神医学的モデル」 [講師] 渡辺俊之

内容—外的、現実的家族に介入するとき、家族メンバーの心にある対象関係も動きます。狩野は、家族療法家はシステム論と力動精神医学の二つの視点による複眼的なとらえ方が治療の幅を広げると述べました。心の中にある父親表象や母親表象が現実の家族や生活の中でどのように作用するかを一緒に考えていきましょう。

講座番号⑦ 「家族心理教育」 [講師] 後藤雅博

内容—家族心理教育は、様々な持続的な困難を抱える家族を支援するための構造化されたプログラムです。その構造は、問題についての情報を共有すること(教育的部分)と問題から生ずる困難さに対処する技能を学ぶこと(対処技能部分)からなり、目標を家族のエンパワメントにおくことが特長です。講座は講義と演習からなり、家族グループおよび単家族への心理教育を学びます。

講座番号⑧ 「ナラティブ・セラピー」 [講師] 坂本真佐哉

内容—ナラティブ・セラピーには「外在化する会話」をはじめ、いくつものユニークな会話のプロセスがあります。それらのすべてはクライエントが自らの人生を主体的に歩み始めることを支援するものといえます。また、それら会話のプロセスそのものがクライエントへの敬意を示し、驚きと共にそれまでとは異なるストーリーを見出すことを助けてくれます。ナラティブな会話に向けた考え方や姿勢、そして進め方などについて共に学ぶ機会になればと思っています。

講座番号⑨ 「バイオサイコソーシャル・モデル」 [講師] 渡辺俊之、上別府圭子

内容—システム理論をベースにしたバイオサイコソーシャル(BPS)な視点からの対象理解は、医療、看護、福祉、教育などすべての領域で重要となります。ジョージ・エンゲルが唱えたアプローチを家族療法・家族看護の立場から紹介します。また、演習として参加者自身のジェノグラムワークを実施し、連合、カットオフ、家族の中の病いの位置づけ、家族メンバーが病気になり家族はどう変わったか。また外部支援者との協働についても学びます。